ヒマラヤ

●特集 ブータン王国トレッキング事情



1980 MAY.

日本ヒマラヤ協会

THE HIMALAYAN ASSOCIATION OF JAPAN --- HAJ

1981年ヒマラヤ登山学校隊員募集

地球上の最高所であるヒマラヤにおける登山は、 岳人の誰もが憧れるところであり、素晴らしい世 界であることはいうまでもありません。しかしな がらヒマラヤ登山は高所という自然的条件がもた らす様々な技術的困難さと渉外をはじめとする複 雑な準備があいまって、実現させることは容易で はありません。

ηνηνηνηνηνηνηνηνηνηνηνηνηνησημη

HAJは、一人でも多くの意欲ある登山者にヒマラヤ遠征の機会をと、1977年以来、4度にわたり延べ90名近い会員をヒマラヤ登山学校隊として派遣してきました。このヒマラヤ登山学校は、確かな技術と経験を有する指導者(インストラクター)の統括のもとに、安全かつ確実を第1にできるだけ多くの隊員が頂上に立つことを目標として実施するものです。

国内における企画・研究・準備実務からはじまり、登山現場での高所登山技術の習得、帰国後の総括・報告までの遠征のすべての過程に隊員が参画して行なうことをモットーにしております。

81年は、日本のヒマラヤ登山が初まって45周年

にあたります。HAJ登山学校はその**発祥の地、** ナンダ・コットで行なう予定です。

UNUAUNUAUNUAUNUNUAUNUAUNU.

ナンダ・コットはインナー・ラインにあり、未解禁のピークですが、HAJの特別な活動により 実現する見通しであります。渉外上、メンバーを 早く確定させる必要がありますので、できるだけ 早く申しこんで下さい。

目的 ①ナンダ・コット(6,861 m)の登頂。

②ヒマラヤ登山の基礎習得

時期 1981年9月14日(日)~10月12日(日) 29日間(登山期間15日間)

負担金 69万円 (航空運賃、他の変動によりスライド)

定員 隊員20名(申込順) インストラクター 4名 申込み 1980年8月31日まで下記あて申込むこと (詳しい資料を送ります。)

表紙写真

K₂, ブロードピーク

荘司 昭夫

チョゴリザ北稜 (6,350 m) より

ヒマラヤ № 102

 1. ヒマラヤ放 談
 尾形 好雄

 4. ヒマラヤニュース
 <地域・新刊・トピックス>

8. 第2回セミナー・トレッキング案内・

15. 集会報告

16. カンチ通信 No. 1 No. 2

 18. 連載
 遠征学入門⑫ — 清水 澄 ヒマラヤ閑話⑲ — 水野 勉 V・エルウィン小伝⑧ — 藤井 毅

24. 事務局日誌

ヒマラヤ放談

8,000メートル峰登山が日常茶飯時化し、アルパインスタイルが叫ばれる昨今、その実践の基礎となるトレーニングはいかにあるべきか? 今月は「雪と岩の会」の尾形好雄氏から日常トレーニングの3法論などを伺ってみた。玄米食と呼吸法そして1日3回のトレーニング等々、怠け者にとっては耳の痛い部分もなくはない。今年のHAJ登山学校のインストラクターでもある彼の話、耳を傾ける価値はたしかにありそうだ。



尾形 好雄

クロカンと呼吸法

最近サイボーグ尾形とかいう渾名がついたそうですが。(笑)

. 尾形 いやいや、とんでもない。(笑)

一で、今日は高所登山のためのそのサイボーグ化の方法論など聞かせてもらいたいと思うわけです。まあ、トレーニングといえば、マラソンとかいろいろあるわけですが、特に高所を意識した場合は、どういうことを心がけるべきなんでしょうか?

尾形 やはり心肺機能の強化が第一でしょうね。 強靱な循環機能と最大酸素摂取量が多くなるよう な呼吸器系を作ることですね。で、そのために何 をやればよいかということになると、基本的には まずマラソンでしょうね。ただし平地走行だけと いうのじゃなしに、坂道とか階段を多く取り入れ て下肢を鍛えるようにするべきでしょう。クロス カントリーなんかいいですね。

――ソ連の登山のカリキュラムには必ずクロカンが入ってるらしいですね。

尾形 そう、やっぱり下肢を鍛えておかないと 息切れが早くくるし……。

一特に呼吸器系だけを徹底的に鍛えるためには、特別な呼吸の訓練法があると聞いていますが。

尾形 ええ、胸式呼吸だけでは酸素摂取量が足

りないという原さんの理論がありますね。人間も 昔四ツ足で歩いていた頃は腹式呼吸だったそうな んだけど、二本足になってから横隔膜の上だけで 呼吸するようになってしまった。

尾形 ヨガとか禅の呼吸法にも必ず腹式呼吸が入ってる。禅の大周転呼吸法とか小周転呼吸法と かにも深い呼吸が入ってる。

――その大周転何とかって、どうやるんですか? 尾形 吸った息を頭のてっぺんまで持ってきて 皆中を通って足の先までいって、ひとまわりして

背中を通って足の先までいって、ひとまわりしてまたはき出すのが大周転呼吸です。小周転呼吸は足までいかなくて、腰から上だけで循環させるを、とまでいかなくても、空手とか合気道でやる完全呼吸というのは、まず静かって息を吐き出すんです。そうすると横隔膜が下ったのはながった時点で下肺からであると横隔膜が下ったと吸い込んできて、上肺と下から順番にずーっと吸い込んできて、全部ではないとされるまで吸い込む。満たされたら一度とりっとされるまで吸い込む。満たされたら一度とりっとされるまで吸いといいといいというように全部吐き出すんです。これを寝る前10分とするといいんじゃないかな。

1日3回のトレーニング

――そういう意識的な高所のための訓練をもう 長いことやってるんですか?

尾形 いや、こと1年くらいです。というのは 78年にヒマルチュリへ行った時の7,500 mでの登りの苦しみ、20歩行っては呼吸を整えるというような、あれを酸素なしでそのまま8,000 まで上げたらどうなるかということを考えてみたんです。これはもっともっとシビアになるわけ。それで、8,000 をめざすんなら現状維持じゃダメだと思って始めたんです。

ーーヒマルチュリの前はやってなかったんですか?

尾形 まあ、普通のトレーニング、平地走行を 40分ぐらいとか、あと階段とかいった程度でし たね。

尾形 まず朝1時間、それから昼30分。

――昼というのは昼休みにやるんですか? す ごいですねえ。昼飯はいつ食べるんですか?

尾形 昼飯は玄米のおにぎり2個しか食べないです。で、あと夜は日によって違います。45分のときもあるし2時間のときもある。夜のトレーニングは1日のトータルのなかで調整する。今日はエネルギーを消費しすぎてると思ったら少しにするし、そうじゃない時はたくさんやる。

――内容的にはどんなことをやるんですか?

尾形 朝は6kmぐらい走る。それから近くの神社の階段へ行く。74段だったかな、これの登り降りを20回。登りは2段とばしでダーッと登って、下りは軽く流す。つまりインターバルです。あと懸垂、腕立てをやって最後に柔軟でちょうど1時間ぐらい。

昼は鉄棒懸垂を10回やって、上体起しの腹筋を50回やって、上体そらしの背筋を50回、すもうのシコを100回。スクワットよりもシコのほうがいいような気がしてね。それから指たて伏せを50回、縄飛び1,000回、二重飛び100回、最後はやはり柔軟で、ちょうど会社の始業のチャイムがなる。

夜は走るだけです。普通は10~12kmぐらい

走ってあとは柔軟。

---なるほど噂どうりのサイボーグ化ですね。

尾形 僕は身体が重いもんだから、上腕も鍛えないといけない。で、鉄棒懸垂、指たては欠かさないことにしている。メスナーは上腕の筋肉はむしろ落としたほうがいいと言ってますが、ある程度の腕力、握力がないと自重がささえられないんじゃないかという気がして……。

―メスナーはもっぱらふくらはぎとか下肢を 鍛えてるんですね。

尾形 ええ、遠征の前は岩登りもやらないという。確かにそのほうが賢いのかもしれない。酸素消費量の多い余分な筋肉は落としたほうがいいのでしょうけど、氷壁を登ったりすることを考えると、僕としてはやはりトータルして鍛えたいですね。

まず己れを知れ

――さっき言われた朝、昼、晩の3回を完全に やるのは、月に何日ぐらいですか?

尾形 12~15日、最高にやった月で15日です。ただ、朝やれなかった日は昼やるとかして悪くても1日1回は必ずやるようにしています。要はたとえ1時間でも30分でもいいから、1日も休まずにやるということが大切でしょう。

あと、日常のトレーニングで大切なのは日誌をつけることです。まず朝起きた時、心拍数をはかって、それを毎日記録していく。最初メスナーの起床時の心拍数が40ぐらいと聞いた時、これは驚異だと思ったんだけど、我々でもずーっと走り込んでくると、40代ぐらいに下ってくる。僕の場合、今48だけど。それから日誌の効果というのはもうひとつあって、自分をしばりつけることができる。

――そうですね。トレーニングというのは、やってるように思っていても、振り返ってみて、月に何回やったか数えてみると、自分が思ってるほどにはやってないんですね。その意味で日誌をつけることによって「もっとやらなきゃ」という意識が生まれてくる。

尾形 そうそう、集会とか、日山協とかいろんなことでつぶれる。今日もまたこんなことやって

るから、これでできなくなる (笑)。

尾形 あとは、やはり山へ行くことが最高のトレーニングでしょう。それもただ普通に山へ行くんじゃなくて、ヒマラヤを意識した山行をすることです。たとえば南アルプスの鹿塩の部落をヒマラヤのBCと考えて、北岳を目標のピークとして設定する。途中のキャンプを熊の平とする。そしてまず初日は塩見岳を越えて熊の平まで1回も休まないで行く。ここで1泊して、翌日はまた三峰岳、間の岳を越えて北岳までノンストップで行って広河原まで行く。これを何時間でこなせるかということをやるわけです。この前は熊の平から北岳まで3時間だった。

― つまり、山でマラソンをやるわけですね。

尾形 まあ、そういう感じです。ただし運動靴をはいて軽身で走っていたのでは意味がないので、登山靴をはいてザックは23kgということで設定してるんだけど……。

――ホントに徹底してるんですね。だんだん恐ろしくなってきたなあ。(笑)。

尾形 いや、でも広島や岡山の人たちなんかもっとやってますよ。僕もヒマルチュリから帰ってきて、文部省の研修会で西の人たちと接した時にガーンときたんです。1日4時間やってると聞いたもんだから……。こりゃ、うかうかしてられないと思った。

---じゃ僕も含めてこのインタビューの読者の 多くは、今ここでガーンとこなきゃいけないわけ だ。(笑)。

尾形 おまえ、サイボーグ化して何がおもしろいんだ!?……なんて言われたりするけどね。(笑)。

一一ぜんぜんトレーニングしないでヒマラヤへ 行って結構すごいとこ登っちゃう人もいますけど、 ああいうの見てると「あんまりやらなくても登れ るんじゃないかな」なんて思ったりすることもあ りますよね。特にくたびれてる時なんか、すぐ都 合のいいように考えちゃう。

尾形 うん、あのアメリカの K₂に登ったリック・リジウェイが言ってますね。ビール飲んで、タバコ吸って、マリファナ吸って、ぜんぜんトレーニングしないで、それだって俺は無酸素で K₂

に登れたんだってね。確かにそういう人も中にはいる。天分として優秀な心肺機能を持ってるんじゃないかなあ。僕はそういうものを持ってないから、やっぱり自分の能力を知らなきゃいけないと思ってる。

――敵を知る前にまず己を知れ、ということで すね。

問題は内臓の障害

――平均的な社会環境に生きているために毎年のようにヒマラヤに行くことができない日本のヒマラヤニストが、徹底したトレーニングを積むことによって、メスナーのようなパーフェクトなアルパインスタイルによる8,000 m峰登山が可能になるかどうか……その辺、どうお考えですか?

尾形 うーん、3年に1回ぐらいしか高所に行けないような場合だと、やっぱりちょっときついんじゃないですか。筋機能とか心肺機能とか、そういうのはトレーニングによって高所向きに強化できると思いますけど、最も心配なのは酸素摂取量の多い臓器の中で特に腎臓とか肝臓とか、そういうものが低酸素情況の中でどうなるか。ちゃんとした解毒作用をするかどうか……その辺が問題ですね。こういうのは国内では強化のしようがないでしょう。メスナーのように年がら年じゅう高所へ行ってれば、こういう内臓の順化まで進んでるんでしょうけどね。

――つまり登るスピードとかいう問題じゃなくて、8,000 mでの生活に非常な危険があるということですね。

尾形 ええ、だから 8.000 ちょぼちょぼの山だったら、これは 8.000 に触ってすぐ降りちゃうわけだから、これなら 3年に 1 回ぐらい遠征やって普段まじめにトレーニングしていれば、可能じゃないかと思う。ただ、カンチとか K_2 とかエヴェレストは、これはもうぜんぜん違うものになってくるんで、これをアルパインでとなると、やはりメスナーのように毎年 8.000 を越えてないと厳しいでしょうね。

--- やはり極地ですね。どうもいろいろとありがとうございました。

(インタビュー構成 角田不二)

地域ニュース

《インド》

レー↔マナリ道路一部クローズ

ラダックの中心都市レーからマナリに抜ける道路は、最近、インナー・ラインの変更により、ウプシとバララチャ・ラの間が外国人立入禁止となった。

これにより、この区間は、ザンスカール寄りの山 道を歩くことになり、シンゴ・ラを経由するまわ り道となる。理由は不明である。

本年度のインド・ヒマラヤ登山隊 (日本隊)は20隊

「ヒマラヤ」99号に80年インド・ヒマラヤ登山 隊一覧を載せたが、更に次の日本隊が追加により、 これで、本年の日本隊数は20隊になった。

ο日本山岳会学生部 (塚原道夫隊長ら9名)

ブリグパント (6.777 m) ポスト

- o 東洋大学 カルチャクンド.(6,617m)8名、8~9月
- 東京薬科大 バルナジ(6,290 m) 久保田隊長 ら10名 6~8月

なお、テリー・サガールの許可を取っていた不二 越山岳会は計画を中止、飛騨山岳会は秋に時期を 変更した。

インドのトレッキングと パーミッション

インドの場合、トレッキングには特別地域(シッキム、その他外国人制限区域)を除いて特にパーミッションは必要としない。普通ツーリスト・ビザ(3ヶ月有効)、或いは短期間であるならばノービザ(空港で30日間をくれる)でも良い。

ノービザで入った場合は、ビザの延長が不可能なのでできることならツーリスト・ビザを取得する方がよい。くわしいことはインド大使館、あるいはインド政府観光局へ問合わせられたい。

※インド政府観光局

《ネパール》

真のニーズ^{}を捉えての協力 ネパール教育協会

ボランティア協力・相手住民のこやしになる・ 真のニーズを捉えた協力を柱としてネパールに協 力しようという民間組織が79年4月に発足した。 会の名は「ネパール教育協力会」といい、京都の 日吉ケ丘高校教諭、石田進さんが世話人となって 活動している。

ネパール農村部で18年の永きにわたって医療活動を続けている岩村昇博士の活動は誰知らぬ人もいないほどであるが、国会は、岩村博士の願いである農村部の人々の生活向上のために「地の塩」として働らく人材の養成を目的として発足したものである。

会の具体的事業としては、①来日ネパール人留 学生の支援、②ミニ会報の発行、③留学生との懇 談などを行なっている。

会費は別に定めず、寄附ということで金額は会員 の自由に任せている。

石田先生は、京都ヒマラヤ会議の折に、本会評議員の矢沢さんの紹介で見えられ、稲田専務理事 ・山森事務局長らと懇談されている。

登山関係者と今後密接なコンタクトを保っていき たいということであり、本会としてもできる限り 協力していきたいものである。

ネパール政府・人事異動

さる1日に政府内で若干の人事異動があり、観 光省関係では以下のとおりである。

プラダハン次官→大蔵省筆頭事務次官へラジバンダリー氏(首相秘書)→観光省次官

なお、注目のレファレンダム(国民投票)はこの 春に行われる予定である。

HIMALAYA NEWS

新刊図書一覧

①ベントゥーラ・絵/チェゼラーニ・文/吉田悟郎・訳,「マルコ・ポーロの昌険」,評論社、1980。 1,300円, (絵本一小学中級以上)。

②藤井知昭, 「民族音楽の旅 — 音楽人類学の視点から — 」, 講談社, 1980・2, 223 P, 390円 (講談社現代新書568)。

③井本英一, 「古代の日本とイラン」, 学生社, 1980・2, 242 P, 1,600円。

④陳舜臣, 「景徳鎮からの贈り物」, 新潮社,

1980·2, 272 P, 950円。

⑤加藤九祚, 「シベリア記」, 潮出版社,

1980·3, 206 P, 980 円。

⑥内田良平, 「ヒマラヤ — ネパールの雪と岩と 光 — 」, 朝日ソノラマ, 1980・2, 157 P, 1,500円。

⑦ハンス・ゲオルグ・ベール著/金義誠也・訳, 「商業帝国――原始イスラムの謎 ――」, 佑学社, 1980・3, 247 P, 1,500円。

®Ⅳ-ホッラー・ホメイニ著/清水学・訳/岩永博・解説,「ホメイニ・わが闘争宣言」,ダイヤモンド社,1980・2,201P,1,200円。

⑨立川武蔵他著,「ヒンドゥーの神々」,せりか書房,1980・3, 図版136 P + 本文245 P,3,500円。

⑩リチャード・F・バートン著/大場正史・訳, 「千夜一夜の世界」, 桃源社, 1980・3, 268 P + 6 P, 1,5 0 0 円。

⑪ホメイニ著/共同通信社・訳,「ホメイニ・わが革命 — イスラム政治への道 — 」,共同通信社,1980・3,214 P,680円。

⑩浅井得一,「ビルマ戦線風土記」,玉川大学出版局,1980・3,200 P,950円,(玉川選書118)。

③深井晋司・高橋敏,「ペルシアの古陶器」,淡交社,1980・3, (A4判変型),15.000円。

(4) 吳承恩·著/小野忍·訳, 「西遊記(三)」,

岩波書店,1980・2,318 P,400円,(岩波 文庫・赤20-3,全十冊のうち三)。 ⑮丹生谷章,「トルコ — バスの旅 — 」,二宮

書店, 1980 · , 256 P (B 6) , 9 5 0 円

⑯Tucci.G., 「西蔵絵巻集成」, 臨川書店,

1980・4, 本巻 (英文) 二冊, 総826 P, 図版 (カラースライド256枚), 本巻30,000円。

図版 6 0,0 0 0 円, (1949年初版の縮刷版)。

砂清水公照・平山郁夫他著/松本栄一・写真,「豪華写真集・印度」,毎日コミニュケーションズ,1980,全三巻(各巻208P),A4,57,000円。

®金岡秀友・井本英一・杉山二郎,「シルクロードと仏教」,大法輪閣,1980・3,268 P,1,500円。

⑩E・プリチャード監修/梅棹忠夫・監訳,中根 干枝・井狩弥介/訳,「世界の民族 — インド亜 大陸 — 」,平凡社,1980・2,153 P,2,000 円,(世界の民族第12巻)。

20吉尾弘, 「垂直に挑む」, 中央公論社,

1980 · 3 , 258 P , 3 2 0 円 , (中公文庫M)。 ②川崎精雄, 「雪山・藪山」, 中央公論社,

1980・2,326 P,380円,(中公文庫M116)。 ②平山美智子,「私たちのシルクロード」,中央 公論社,1980・3,353 P,420円。(中公文 庫M119)。

30飯山達雄/写真・文, 「河北から雲南へ」, 国 書刊行会, 1980・ , A 4 版, ,4,000円, (遥かなる中国・大陸写真集・第二巻)。

②伊藤義教,「ペルシア文化渡来考──シルクロードから飛鳥へ──」,岩波書店,1980・3,196 P, 1,700円。

図G・H・ジャンセン著/最首公司・訳,「挑戦するイスラム――なぜ彼らは西欧世界と闘うのか――」,ダイヤモンド社,1980・3,250 P,1,400円。

26 甘粛省博物館・編,「甘粛彩陶」, 文物 人版,1979・ , 6,000円。

②常書鴻,「敦煌の芸術」,同朋舎,1980・ 220 P,2,800円。

トピックス

東京定例会スタート第1回—4月24日休

永く中断しておりました例会を4月から開設いたします。毎月肩のこらない催しを持ち、楽しいクラブ・ライフの一環として運営したいと思います。気軽においでください。

期日 4月24日 (木) 午後6時30分~8時30分 場所 HAJルーム (東京都新宿区高田馬場3-23-1

今月のテーマ

「シッキム・ヒマラヤを語る その1」 HAJ第2回トレッキングセミナーは シッキムです。めずらしいスライドをま じえて、美しいシッキム・ヒマラヤを語 り合いたいと思います。

会費 コーヒー代等 200円

豪準備の都合がありますのでTelしてからおいで ください。

ビスタリ・クラブ例会(第9回)

8月23日から27日までの4泊5日で、第9回の ビスタリ・クラブの例会を八ケ岳縦走(小淵沢駅 一編笠山一権現岳一赤岳一美濃戸一茅野験)で開 催の予定。参加希望者は下記まで連絡下さい。

会費変更についてのお願い

HAJの事業は現在飛躍的に増大しており、 名実ともに我国におけるヒマラヤ・センターを めざして懸命の努力がなされています。

昨年秋からの常勤職員の設置、ルームの開設 各地での日本ヒマラヤ会議開催、国際交流によ る研究会開催、レファレンスサービス開始。更 に本年度より年報の配布等々、最大限の会員サ ービスが展開されています。

これらの各種事業を実施するためには多額の 経費を必要としますが、とうてい会費収入だけ では不可能であり、様々な手当をしながら維持 しております。しかしながら、社団法人発足を 間近に控え、更に会員サービスの抜本的向上を なすためには、会財政の基本となる会費収入の 確立が最も重要になってきております。この件 については去る12月の常務理事会において真剣に検討され、最低限の措置として、現行会費を55年度から2,000円アップし、6,000円にせざるを得ないとの意見が提出されました。

ちなみにHAJの全財政規模は現行会費4,000 円になった昭和50年度に比較して約5倍に拡大 しております。

つきましては、今後とも更に一層の会員サービスの向上と会財政の強化安定に全力をつくしますので、すばらしいHAJを建設するために会費変更について、会員各位の御理解をお願いする次第です。

なお、正式には55年4月の総会において提案 し、御承認をお願いする運びとなります。

●昭和54年度新入会員名簿③ (54.10.1~12.31)

会員番号	氏	名	入会年月日
1339	太田	正弘	54. 10. 1
1340	村上	満尋	54. 10. 1
1341	板橋	元一	54. 10. 3
1342	酒田	総嗣	54. 10. 4
1343	水島	鋭秀	54. 10. 5
1344	榊原	幸子	54. 10. 8
1345	西沢	信男	54. 10. 9
1346	太田	陽三	54. 10. 12
1347	常陸	民生	54. 10. 23
1348	水野	正雄	54. 10. 25
1349	遠藤喜	喜重郎	54. 10. 26
1350	尾形	好雄	54. 10. 28
1351	稲垣	公平	54. 10. 30
1352	戸部	玲子	54. 10. 30
1353	日高	照雄	54. 10. 18
1354	藤倉	和美	54. 11. 22
1355	木村	陽子	54. 11. 22
1356	鴨田	行雄	54. 11. 22
1357	師田	信人	54. 11. 22
1358	粂川	章	54. 12. 7
1359	若林	岩雄	54. 12. 8
1360	浅野さ	さつき	54. 12. 9
1361	阿部	忠正	54. 12. 12
1362	三河	常郎	54. 12. 15
1363	前島	孝夫	54. 12. 17
1364	薗田	芳子	54. 12. 18
1365	菅野	一寛	54. 12. 22
1366	大山	敦	54. 12. 22
1367	藤原	邦俊	54. 12. 22
1368	宮田	史郎	54. 12. 24
1369	工藤	光隆	54. 12. 25
1370	熊谷	洋	54. 12. 25
1371	西嶋釒	東太郎	54. 12. 25
1372	松島	祐一	54. 12. 25
1373	堀内	章雄	54. 12. 27
1374	森	辰男	54. 12. 28
1375	伊藤	文雄	54. 12. 30
1376	西出	悦子	54. 12. 30

"ヒマラヤの真珠"

霊峰カンチェンジュンガと 豊なる生命の宝庫 シッキム・ヒマラヤを訪ねる

HAJ野外活動研修事業トレッキングセミナー(第2回) 昭和55年10月19日~11月9日(22日間)

すぐれたリーダー、インストラクターの指導の もとに、歴史・文化・自然・人々の生活を深く訪 ね歩く旅、常に知られざる地域をもとめて1人1 人の隊員が自らのテーマを持って築くゆたかな旅、 それがトレッキングセミナーです。

いつも未知とロマンを描いてヒマラヤを歩き登ってきたHAJでこそできる企画であると確信しています。今回は、外国人が通常入れないシッキム・ヒマラヤに特別ルートでもって道を開きました。ふるって御参加ください。

- ◆時期 昭和55年10月19日(日)~11月9日(日) 22日間
- ◆地域 首都ガントックから東部シッキム・ヒマラヤ, サンダクプー, ファルート, ダージリン周辺およびカリンポン
- ◇隊員 17名 インストラクター1名
- ◇隊名 隊員でふさわしい名を付けてください。
- ◆経費 39万円前後 (一部未確定。但し、航空運 賃, 為替レート等の変動によりスライド する。)
- ◆参加申込 昭和55年6月20日締切(定員になり次第) ※シッキムは現在厳しい入域制限をしており、事務局として特別の渉外手続を要しますので早期にメンバーを確定する必要があります。至急申し込んでください。

◆セミナーの内容

- 1. 日本を出るまで 事前研修(富士山・他)、チームづくり、実 務準備(分担)。
- 2. ガントックで。 チベット学研究所,政府工芸研究所,シッキム旧王宮,他の見学,関係者との懇談。
- 3. トレッキングで
 - ①シッキム・ヒマラヤ レプチャ人集落・シッキム仏教寺院、旧蹟、森林、氷河等でのフィールドワーク。カンチェンジュンガを頭上に、タルン氷河を見下ろす Gocha La (4,940 m)までのトレッキング (トータル11日間)
 - ②カンチェンジュンガ,ジャヌー,エベレスト,マカルー等の展望をほしいままにするネパール との国境 サンダクプー,ファルートへのトレッキング(3日間)。
- 4. ダージリン, カリンポンで

国立ヒマラヤ登山学校・博物館視察と学校関係者(テンジン・他)との懇談、チベッタンレスキューセンター・植物園・タイガーヒル・ティープランテーション・他の見学、グラハムスクール訪問(カリンポン)。

- 5. カルカッタで インド国立博物館 他市内 見学。
- 6. テント (山小屋) に着いて、灯を囲みながら 1日をふりかえっての語らいと整理。

- 7. 自らの創意で1人1人のヒマラヤ。
- 8. 日本に帰ってから 整理・検討・本づくり 写真整理・報告会など、そして更に次の夢多い プランの醗酵と永いつきあいを。

◇日程

期日	摘要
10.19 日	東京 12.15 (AI301 便、ジャン
	ボ) ― カルカッタ着 20.30 エア
	ポート・ホテル泊(カルカッタ)
20月	カルカッタ 13.00 (IC 221便)
	— バグドグラ着 13.55 — ガン
	トックまでティスタ河沿いに 4.5
	Hドライブ(シンタム経由) ガ
	ントック泊
21火	ガントック――ペマヤンシェ(車)
	集落・寺院等訪問。ツーリストロ
	ッジ泊
22水	ペマヤンツェからトレッキング開
1	始
	ョクサム(1,780 m) ~バキム(3,
1	005 m)~ゾングリ (4,030 m)~オ
	ングラクタン(4,265 m)~東ラト
	ン氷河~ゴチャ・ラ(4,940 m)
l	帰路は一部異った道をペマヤンツ
	ェへ。ロッジ及びテント泊。
2 日	
	ル他訪問。
3月	
4 .14	見学・交流。
4 火	(0,000)
	のロッジ泊、カンチ、エベレスト
E ak	ジャヌー大観。
5 水	— ファルート。ネパールとの国 境を歩く。
6 +	現で少く。 —— ダージリン。自由研修
	ダージリンー車ーバグドグラ(14.
1 212	25 I C 222便) — カルカッタ15.
	20 着(エアポート・ホテル泊)
8 +	国立博物館見学 カルカッタ13.45
01	(TG 312便) ― バンコック17.
	30着 市内見学
9 F	バンコック 0.50 (A I 308 便)
	東京10.30 解 散

※一部日程調整中

◇地域のあらまし

「左にはネパール、右にはブータンが、そして 三つの中で一番小さな中央にある真珠の粒……生 命の数限りなく芽生える蔭深く暑い熱帯森林と永 久に輝やく氷の砂漠とが交互に連続している……。 神々が広々とした大地を太陽の下に延べ拡げる以前に、まず試みに創造した土地……」 — フォスコ・マライーニ「ヒマラヤの真珠」より。

シッキム・ヒマラヤは、カンチェンジュンガ(8,598 m) を盟主として、ネパール・チベット・ブータンに接し、ティスタ河の流域に属する。ベンガル湾に最も近く、モンスーンの影響を最も激しく受け、東西数十kmの間で8.000 mという地上最大の落差を有する地形と相まって、複雑多彩な自然を有し、自然科学上の宝庫といわれている。

このような狭い地域に凝縮されたゆたかな生命 は地上の他の地域で見ることはできない。

やわらかな霧に育てられたシャクナゲのジャングル、さまざまなランと寄生植物の楽園、幻想的なメドウ(アルプ)、ヤク、無数の鳥、流れ下る氷河とそびえたつ秀れいな氷雪の高峰などあまりにも変化に富む自然。

日本にまで延びる照葉樹林帯文化の西端としての共通性への興味は、レプチャの人々の素朴な生活と風習、シッキム仏教、チベット文化等に代表される。

シッキム・ヒマラヤにもとめるセミナーのテーマは限りなくゆたかである。



ブータン王国トレッキング事情 森田 千里

ブータンの山旅から

現在ブータンにトレッキング入った日本パーティーは、昨年と今回2回の私たちの経験しかないということなので参考になる部分を少々書いてみたいと思います。

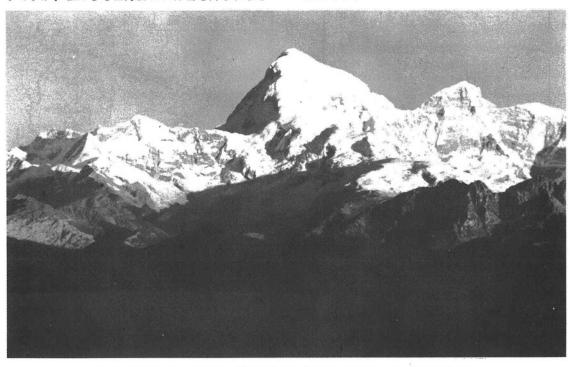
私たち一行8名は、12月24日出発で、ブータンの峠を馬でのんびり越えてきました。帰りには、 シッキムをまわってきました。

昨年は、西部ブータンのチリ・ラから、カリ・ラへの山稜を、外国人第1号として歩かせてもらいましたが、今年も観光局の好意で新しいコースを用意してくれました。首都、ティンプーから北東に入り、シンチュー・ラを越えてプナカに到るコースです。ティンプーが 2,473 m、シンチュー・ラが、 3,429 m、プナカが約 1,200 mですから、登りコースは、たいしたことはありませんでしたが、下りは、結構、長いコースです。今年の暮れの、ヒマラヤ方面は、各地で多少天候が荒れたようですが、私たちも12月29日には雪も降られまし

た。冬には1、2回という珍しいことだそうです。 雪におおわれた針葉樹林帯からの、ヒマラヤの眺めは又、格別でした。雪の峠から、3,000 m附近まで下ると日なたには、桜草が咲き、ヂンチョーゲのヤブも花ざかりで、全く春の様子です。照葉樹林帯を縫って、馬に、ふみくちゃにされた道が続きます。夏は、山びるの巣になるところです。1,600 mあたりまでくだると、部落には、ミカンがたわわに実り、真赤なポインセチアやバナナが見られるという変化のはげしさです。全員に乗馬も用意してくれましたので大変、楽ができました。プナカゾン近くのモ・チュー(川)で、40cm級のマス(ブラウントラウト)を一ぴき、釣りあげ、ブータンの魚も、だませることを確認してきました。

入国事情

現在ブータンにトレッキングで入るためには、 6名以上のチームで、2ヶ月以前には申請書を提 出することになっています。提出先はブータン観 光局です。



▲ ブータンヒマラヤの名峰 Chomolhari (7,315 m) カロ・ラ (峠) 附近より

Depertment of Tourism

Royal Government of Bhutan

THIMPU: BHUTAN

必要な書類は入国申請書と、インドのインナー ライン通過許可申請書の2通です。この2つを送 れば、全部観光局でめんどうみてくれます。

滞在日数は、インドの事情で、インナーライン 通過の許可が2週間限度なので、ブータン国内滞 在は12日が限度となっています。

カルカッタから、バグドグラ空港へ着くと、 こ こに出迎えが来ています。 ここから、 車をはじめ 一切の世話は観光局によってなされます。

トレッキング事情

第1日は、バグドグラから車で3~4時間、プ



▲雪のShinchu – La (3,429 m)

ンツォリンで泊ります。インド側、ブータン側の チェックポストの通過等は、観光局のエスコート がすべてやってくれます。

第2日に、ブータンハイウェーをひたはしり、 首都ティンプーか、パロに入り、

第3日目から、トレッキングに入れます。平地の観光を含めた時は、他のパーティとの関係で、多少の予定は、打合せの上、うごかしたりできます。現地では宿泊施設も少いので、一度に多勢を受入れたりはしないようです。自分好きなコースを勝手にあるくことはできません。

トレッキングにかかる費用は、1日1人90 \$が 基準で計算され、(観光は130 \$)シーズンオフ (1月~2月)と(7月~8月)は多少、割引が あるようです。僧侶と25才以下の学生は半額だと いうことです。かなり高いですが、観光が収入源 ですから、かなり力を入れてますし、いたしかた がないことでしょう。そのかわり、一切の生活を、 みぐるみめんどうみてくれるわけです。個人です。 トレッキング中の役も、毎夜、アルコール類まで 用意されているのには驚きました。食事も中華風 にアレンジした、ブータン料理で、朝から結構な ごちそうです。肉類も、ヤク、豚、牛、ニワトリ と豊富でとてもおいしい肉です。他のヒマラヤ地 域の旅では、なかなかおめにかかれません。特に

日本食の用意などいりません。エスコートも全旅 程につく人が1人、トレッキング専門の人が1人 つきます。今年は、コックや、ラバ隊の人も含め ると8名の隊員に10名のつき人で、いたれりつく せりです。さっぱりしたブータン人の気質とあい まって楽しい山旅の人間関係をいろどってくれま す。荷馬以外に全員の乗馬も用意され、ブータン の冬には珍しい雪のシンチューラを馬で越えたよ うなわけでした。

個人装備として必要なものは、寝袋, エアーマ ット, 水筒, 薬品, 防寒具など身のまわり品を用 意すればすみます。共同装備一切は用意されてい ます。

トレッキングコースについて

パンフレットなどで公開されているコースは、 A · Bの2コースですが昨年私たちがはじめて歩 いたコースも、一般に開かれたということです。 今年、トライしたコースも含めて4つのコースの 概要を簡単に述べてみます。

A. Druk Path コース

首都ティンプーから、4日間かけて、パロに出 るコースです。

B. Dagala Route ⊐-ス

ティンプー南部の4.000 m級の山稜と山上湖を 結ぶコースで、8日間です。展望のよいコースで

上記2コースともに平地の観光と組み合わせて 実施されていますが、交渉次第で、変更できます。



▲ 東部プータンヒマラヤ Ganker - Punzum (3,541 m)を望む ▲ Shinchu - La より

C. Chili -La コース

パロから、チリ・ラに登り、パロの谷とハの谷 の間の 4,000 m 位の稜線を北上し、ドルック・ゾ ンから、パロにもどるコースです。カンチや、名 峰チョモラリのよく見えるコースです。

D. Shinchu -La]-Z

ティンプーから、プナカに越える古くからの道 をたどるコースです。まだ公開はされていません 夏は、山ビルの多い道で、峠附近からは、ブータ ンヒマラヤがよく見えます。樹林帯の道が奥秩父 を思わせます。

ブータン東部や、北部のルナナ高地方面はまだ 許可されていません。しかし、後者については、 検討をはじめているようです。くわしいことは、 私か、山岳スポーツ研究所海外部の真藤氏に問い 合わせください。5月には観光局のドミニク氏が 来日される予定なので、又、新しい情報が得られ るだろうことを付記します。

(労山海外委員会 森田 千里)

「ヒマラヤ」表紙の写真は会員の皆様より広 (4)なるべくあまり知られていない角度からの 募したものを、毎月一作づつ掲載する予定でおり ります。ふるって御応募下さい。採用分には全 国共通図書券を差しあげます。

≪規 定≫

ok ok ok

ok

ok

(1)モノクロでキャビネ判以上であること。

(2)被写体は広義に解釈したヒマラヤ地域のも のであること。

(3)未発表であること。

写真、あるいは未知の地域の写真を期待し ます。雑誌、広告等で頻繁に見うけられる ような写真(例:カラパタからのエベレス

ト)などは御遠慮下さい。

≪送り先≫

ネパール登山協会(NMA) 一登山規則一

- 1. 付録"A"に記載されている山を登る場合、 NMAは、王国政府の主権に基づき登山規則を 制定する。
- 2. これらの規則は、直ちに効力を発するもので ある。
- 3. 定 義

これらの規則の適用は、王国政府の登山遠征 規則 1976 と同じである。

- 4. 登山許可証
 - 1)付録"A"の山を登るいかなる個人もNM A発行の登山許可証を受けなければならない。 許可の申請は、付録"B"に示された形式で なければならない。
 - 2)登山期間は、2週間とする。
 - 3)登山期間は、必要に応じてもう2週間延長 することができる。
 - 4)登山期間は、入山日数若しくはB・C以降の期間であり、行き帰りのキャラバン日数は 含まない。
 - 5) いかなる時でも、登山の申請は隊の構成員 か隊の代理人でなければならない。登山許可 は先着順である。
 - 6) 登山を許可された隊は、付録 " C " に示された許可証を受ける。
 - 7) 許可された隊は、NMAにより入山の許可 を得るため、王国政府の入国管理局に推せん される。
- 5. 登山料の支払

1人当り315ルピーの登山料は、許可されたいかなる隊もそれぞれの隊員に課せられる。

付録"A"の登山の場合、合計額の最低料金はそれぞれA1の場合1,260ルピー、A2の場合630ルピーとする。

この規則はネパール国民には適用されない。 2週間より登山期間が延びる場合は、初めの 登山料の総額の25%の追加料金をそれぞれの週 ごとに課せられる。

6. 返 却

計画の取り消し、若しくは遠征の中止の場合、すでに支払い済みの料金は返却されない。

7. サーダー/ガイド

登山許可を受けたすべての個人及び隊は、N MAに登録されたサーダー/ガイドを伴うべき である。

以下は、サーダー/ガイドの役割と義務である。

- 1)登山隊の手助け、例えばポーター、その他 の人員の雇い入れと管理、食糧の輸送と登山 中に起こるであろう問題に能力の限り対処す ること。
- 2) 登山隊が規則以上の日々にわたり入山した場合は、NMAに報告すること。
- 3) 登山者が規則を守るように監督すること。
- 4) 登山者が定められた道筋を通るよう監督すること。
- 5) 登山者がゴミをきちんと処分して山を汚さないよう監視すること。
- 6) いかなる規則違反もNMAに連絡すること。
- 7) いかなる刑事事件も近くの警察に連絡する こと。

サーダー/ ガイドは、キャラバンの頭初より 登山期間を通してキャラバンの終了まで雇うべ きである。

サーダー/ガイドは下記の待遇に装備を用意 されるべきである。

- 1) 最低日給 30ルピー
- 2) 食糧、テントの便宜を受ける。
- 3) B・Cより上にあがる場合は、登攀用具と 必要な衣類。
- 4) B・Cより上にあがる場合は、対人事故7 5,000ルピーの補償をすること。B・Cより 上に行くすべての雇い人も同じ条件とすること。
- 8. 許可を受けた各隊は、NMAと隊との連絡活動のために、カトマンズ駐在の代理人を指名する。

代理人はNMAに登録された個人か、組織である。

指名された代理人は、登山隊が事故や他の予期せぬ出来事に見舞われた場合は、責任をもって処理する。

9. 報告書の提出

登山が終了し、カトマンズに戻ったら、登山 隊は付録"D"の形式でNMAに報告書を提出 すること。

10. 許可の取消し

NMAは、いついかなる時でも理由の明示いかんにかかわらず、登山許可の取消し及び撤回することがある。

11. 規則に従わない場合

いかなる隊であれ、登山許可に違反するあらゆる行為、あるいはネパール国民の文化習慣に対して反社会的及び無法な態度を取った場合、NMAは登山規則1976、36項に従って王国政府に必要な処置を取るよう依頼する。

12. 環境の保護

登山終了後は、各キャンプを完全にもとに戻して撤収する。例えば、固定ロープやハーケンのような外国製品は、山に残してはならない。すべてのゴミも焼くか、他の方法で処分しなければならない。

13. 規則の改正

当規則のいかなる項目であれ、王国政府の事前の認可により撤回又は変更することがある。

付録"A"

A 1

Hiunchuli 6,333 m
 Annapurna Himal, Gandaki

2. Fluted peak 6,390 m
Annapurna Himal, Gandaki

Mera peak 6,431 m
 Khumbu Himal, Sagarmatha

4. Kusum Kangru 6,369 m Khumbu Himal, Sagarmatha

5. Kangde 6,194 m Khumbu Himal, Sagarmatha

6. Chulu West 6,630 m

Manang District, Gandaki

Chulu East 6,200 m
 Manang District, Gandaki

Island peak 6,153 m
 Khumbu Himal, Sagarmatha

Pharchame 6,282m
 Rolwaling Himal, Janakpur

10. Lobuje 6,110 m Khumbu Himal, Sagarmatha

A 2

Tent peak 5,500 m
 Annapurna Himal, Gandaki

Ramdung 6,021 m
 Rolwaling Himal, Janakpur

3. Mehra peak 5,820 m Khumbu Himal, Sagarmatha

Gangjala chuli 5,806 m
 Langtang Himal, Bagmati

Pokhalde 5,802 m
 Khumbu Himal, Sagarmatha

Mardi Himal 5,555 m
 Annapurna Himal, Gandaki

Pisang 6,091 m
 Manang District, Gandaki

8. Paldor peak 5,894m

Langtang Himal, Bagmati

付録"B"

Application for Climbing Permit

付録"C"

Napal Mauntaineering Association
Climbing Permit

付録"D"

Napal Mauntaineering Association

Climbing Permit Report

集会報告

日本ヒマラヤ会議(京都)

─ 超満員の会場 ─

と き 昭和55年2月24日10時~16時30分 ところ 京都市 京都府青年会館 参加者 47名(氏名省略)

主催者の予想を上回るたくさんの参加者のため 会場が手狭となり御迷惑をおかけしてしまった。 関西地区の山の集会としては記録的な参加者であ ったとのことで、設営にあたった、内田・南・豊 島・西村の各氏および地域会員の方々に厚く御礼 申しあげたい。

内容

①地域研究 インド・ヒマラヤ 稲田定重氏 インドの登山事情・登山規則・各地域の入域 事情などについて、約1時間の解説のあと、ガンゴトリの山々についてスライドを上映した。 80~81年にかけて計画を持つ隊からの参加者もあり、興味深い山々が紹介され、有意義であったと思われる。

②ダウラギリ縦走 小松幸三 (カモシカ同人ダ ウラギリ縦走登山隊副隊長)

スライドにより、ダウラギリの三山縦走の記録 が反省評価を含めて話された。

質疑応答も活発で、この記録に寄せるヒマラヤ ニストの関心の高さを示した。

なお、席上、カラー刷りの美しい仮報告書が参加者全員に無料配布され喜ばれた。

③研究 ヒマラヤにおける 遭難の解析とその防止 山森欣一(HAJ事務局長)

1970年以後の日本隊のヒマラヤにおける遭難についての統計分析をもとに、その原因を探り対処を考察した発表が行われた。遭難死者の率が3%を越えるという冷厳な事実は参加者にとってショックだったようだ。

会議が終ってから会員有志でお茶会を持った。

日本ヒマラヤ会議(札幌)

一48名参加一

と き 3月9日(日)10時~17時 ところ 札幌市場外馬券センター あらまし

全道各地より、ヒマラヤ・カラコルムなどに 関心を持つ山仲間が48名もあり、熱気でいっぱい であった。

会議は、HAJ札幌グループの世話人の協力と 準備により進められた。まず、世話人を代表して 大崎正信評議員からあいさつがあり、阿部評議員 が講師を紹介し、会議に入った。

- はじめに、HAJ専務理事の稲田定重氏により インド・ヒマラヤの地域事情や最新情報につい て話され、「入域可能地域・不可能地域はどこか」 「登山・トレッキングで面白そうな所、注目すべ き所はどこか」、その他、登山規則・手続・ビザ ・通関等について、具体例、裏話などをあげて説 明があった。
- 日山協海外常任委員の田村俊介氏からは「共産圏の山々」というテーマの話が行われた。地図を使い、また、氏の体験を通し、「パミー

ル登山の面白さ」、「シルクロードや玄奨三蔵への歴史的興味を誘う天山山脈」、「岩登りの魅力のカフカズの山」などについて概説的な説明があった。

カラコルム・ヒンズークシュについては、権 威者である広島三朗氏(日山協海外登山委員長) より、アフガニスタン、パキスタンの政情、国境 線や停戦ラインの地図上の誤り、登山・トレッキ ング事情、申請方法などについての話が行われた。

氏独特の話術に加えて、雑談・余談も豊富で、 楽しい 2 時間であった。

朝から夕方までの長時間の会議にかかわらず、途中退席者もなく有意義に過した1日であった。

また、会議中に、道岳連金子会長より中国登山の許可がきた旨の発表があり関係者一同大いに喜ぶという一幕もあった。終了後は会場を移し、午後10時頃まで30名近い参加者を得てHAJ北海道集会が持たれ盛大であった。遠方よりこられた講師の方々に多謝。(大崎正信)

カンチ通信 No.1

3月9日カトマンズにて

'81カンチ本隊に先立つ偵察隊派遣につきまして は皆様に大変お世話になりました。おかげ様で、 偵察隊7名は3月3日全員がカトマンズに集結し 例年になく不順と言われている天候の下、隊荷の 再梱包に追われています。

明日、ダーランバザールへ向けて出発しますが、本年のカンチ方面は、主峰北面に山学同志会、主峰西面に西独隊、ヤルンカンにメキシコ隊と我々の4隊が入ります。同志会、メキシコ隊は既に出発し、西独隊は先発2名が5日にカトマンズに入りました。西独隊の出発が遅いのが我々にとっては心配のタネです。唯一の救いは、西独隊のキャラバンルートがイラム~タプレジュンになりそうだと云うことです。

隊の構成はリエゾン1名, サーダー1名, ハイポーター3名, ベースキャンプ要員4名の隊員合わせて16名です。リエゾンは警察官チョーダリ氏45歳。遠征は初めて。サーダーに予定していた、ワルソ・ソナムは急性心不全で死亡し、代わって日・イ・マナスルで登頂者になった、パサン。日本隊に多くついています。日大のヤルンカンにも行ってますので役に立つと思います。シェルパは、リンジ, アン・ペンバ, ダワ・ヌルブ, コックはギャルツェンいずれも群馬 '78 で使ったメンバーです。

隊荷はカトマンズで再調整した結果約2.7 t、ポーター数90名。行動は、西独、メキシコ共にグレートシェルフ経由につき、慎重に行うつもりです。尚西独隊は計画によれば、エバンスルートではなく、M,C間ルンゼの取付からMに直接登る予定。

カトマンズでは、法政大(ラムジュン)信州大 (ガネッシュII)慈恵大(ガネッシュII)上市(ア ンナプルナII)スイス(シスネ)アメリカ(マカ ルー)等が出発していません。我々の荷が入った 翌日からカトマンズに貨物持込み延期になったた めです。アメリカ隊のマカルーは4名で、セニョ ールのルートを無酸素でアルパインスタイル登攀 の予定です。中心はロスケリー。なかなかの好感 の持てるアルピニストです。その後、彼は単独でカラコルム・トランゴタワーをニュールートから登る予定。 K_2 , ジャヌー, ガウリサンカールと常に小人数でハードなクライムを続ける男です。

簡単に日誌を書きます。

- 3月3日 12時10分山森以下本隊カトマンズ入り。 午後観光省にシャルマ氏を訪ね挨拶
- 3月4日 本日よりAM7時から約1時間全員に て、トレーニング。大使館挨拶。両替。
- 3月5日 リエゾン・シェルパ顔合わせ。健康診 断後、契約、支給装備点検、梱包。
- 3月6日 朝・雷雨、梱包、隊員、リエゾン・サーダー打合わせ。
- 3月7日 食糧梱包、シェルパ2名ポーター手配 のためダーランバザールへ光発。
- 3月8日 梱包。

ダーランからのキャラバンは13日スタートの予定。BC入りは4月5日予定です。次回は、タムール河畔から報告します。花咲き乱れるカトマンズより。(山森・記)。

偵察隊現地連絡先

C/O Express Trekking
P.O.Box339 Kathmandu Nepal

カンチェンジュンガ遠征隊 募金について

1981年 HAJが主催するカンチェンジュンガ遠征隊は、8,500 m三山を縦走すると言う空前絶後の計画です。HAJ会員の一人一人の皆様のご協力を是非お願い申し上げます。

≪募金要領≫

- 金額 1口 1万円
- 払込 日本ヒマラヤ協会 (カンチ)

カンチ通信 No.2

3月15日ゾルパティにて

酷暑下のダーランバザールでの再梱包を終え、3月13日午前9時30分112人のポーターと共にキャラバン開始。いきなり900mの登りで少々しんどい思いをしました。しかし、径々にはバッティと呼ばれる茶屋が点在し、チャ(紅茶)やチャン(ドブロク)果物を売っており、道草を喰ってしまいます。ジリジリと照りつけるヒマラヤの太陽の下で今が盛りと真紅のラリグラス(シャクナゲ)が咲き誇っています。1日の行程は、30kgの荷を背負ったポーターで約8時間です。街道は道幅も広く良く整備されています。この日は峠から、レウティ・コーラに降りキャンプしました。

3月14日 午前7時30分出発。レウティ・コーラ 左岸から右岸へ渡り、タムール河に出ました。今、 ダラン、ダンクタロードプロジェクトが推進され ており、ダーラン・バザールからダンクタに立派 な車道が延びています。このレウティ・コーラ沿 いにも橋が架けられたり急ピッチで工事が進めら れています。タムール河は、その源をカンチェン ジュンガに発しガンジス河に注いでいます。

ダンクタの登り口になる付近は砂地で格恰の海 水浴場のような所です。早速何人かの隊員は水泳



ダラン・バザールでの買物の 菊地(左)・山田(右)両隊員

ポラロイドカメラは、日本ポラロイドより提供 を受けたもので、以後のカンチ通信でも現地写真 が送られて来る予定である。 を楽しみました。ダンクタは、この付近の中心地 です。美人の産地としても有名です。街筋は白と 茶の土塀が続き石畳の続く美しい街です。

3月15日 8時出発。尾根筋を辿りヒレの街を通過し、このゾルパティにキャンプしています。ヒレから2時間です。通常の登山隊はヒレにキャンプしていますので、ここまで延ばすことについてはポーターの不満がありましたが、結局全ポーターが到着しました。しかし明日からが心配です。

この山奥へ入りますと、ポラロイドカメラの威力は抜群で、キャラバンの推進に役立っています。今日は雲が湧き、標高も 2,000 mを超えました。 陽が沈むとさすがに寒く食事 (夕食は大体 6 時半頃) の時は羽毛服を着込んでいます。明日あたりから雨の心配も出て来ました。

3月14日には、医薬品を持って片岡隊員が追い つき全メンバーが揃いました。これからが本番と 全員張り切っています。次回はタプレジュンから 報告します。雲表の草原ゾルパティより(山森)



タムール河での水泳

遠征学入門

XII

実践編

隊組織について (1)

清水 澄

遠征学入門もとうとう私に順番がまわって来て しまった。前2人の筆者が書いているうちは、私 は読者という立場であるから気楽にそれを読んで 楽しんでいればよかったのであるが、自分が筆を 執るとなると気分は浮かない。阿部氏の理路整然 とした論文、西郡氏の体験をもとにした人間味あ ふれる理論に比し、私のはどうなることやら心も とない。もともと常日頃、体を使って頭を使わな い仕事をしているので、文章を書くなど全くもっ てダメなのである。ましてや"学"などとなると どのように筋道をたてて行ったらよいのか、皆目 見当もつかない。しかし、引き受けさせられた以 上は、編集者に迷惑をかけながら、当りさわりの ないことを書き綴らざるを得ない。多くの熱心な 読者諸氏がこれから遠征にむかわれるであろうこ とを思うと、責任の重大さに今からでも止めたく なるのであるが。

遠征"学"とは似ても似つかぬものになろうか

と思うが、最初からお許しをお願いしておく次第 である。

隊の中の個の役割

さて今回は遠征の中でも最もヤッカイな人間関係の問題を考えてみたい。何ごとでもそうであるが、何かコトを成そうとする時は、そこにある人間が一番重要なかかわりをもつ。世の中、法律、規則、慣行、事例、宗教、発想、理論、学問、権威、命令、その他ありとあらゆるものが、人のがあろうとも、そこにある人間の考え方次第でどうにでもなるのである。例えば、あるコトがAには非常に重大であっても、Bには何の価値もなかったり、Aが遵守するものをBは踏みにじったある。姿、形は同じヒトであっても、頭の中で考えるコトと、それから発する行いには大きな違いがあるのである。

このように違う人達を集めて遠征をしようというのであるから、そのままではうまく行く筈はない。何らかの共通項を見出し、或いは作り出し、連帯意識を養って行かなければならない。その共通項が多ければ多いほど、連帯意識は強固となると考えられるから、遠征はうまく行くであろう。つまりは良い遠征となる。何故ならば、連帯意識とは一体感であり、団結力ともなるから、多少の困難などは物の数ではないし、普通ならば不平不満となるべき事態も問題ともならない。ばかりではなく、その持てる力は十二分の上にも発揮されるからである。

そこで、では共通項とは何か。本シリーズで阿 部氏がとり上げている総て、西郡氏が云わんとし たこと総て、そして今後筆者や他の担当者が扱お うとする総てがそれに当る。ということは遠征に 関すること総てが、参加者にとって共通項なので ある。これでは範囲が広すぎるし漠然としていす ぎる。そのため共通項が共通項とは思えなくなり、 結局は自我の発揮となる危険に陥る。ここに遠征 における人間関係のむづかしさがある訳である。

が、これでは良い遠征は目指せないので、もっと問題を簡略化してみることにしよう。遠征につきものの数々の局面, 困難な事態に立ち至ったと

き、一致協力して乗り切るには精神的に一体となっていることが必要である。それには考え方、つまり遠征の理念が完全に統一され一致していることが何よりも大切である。これが共通項の中での最重要項である。更に隊員(隊長を含めて)相互間に少しの不信,不平もないことである。これが第2の重要項である。第3は任務への忠実度と処理能力,行動力である。遠征隊員間の数多くの必要な共通項の中で、これら3項が特に重要である。これらが完全に解決されていれば、遠征の人間関係については、大した問題は起らないと考えて差支えないと思われる。

結局これらは、遠征(隊)の中の個対全体(組織)の問題である。第1の理念問題は、阿部論文に詳しい。このようにビッチリやることこそは"学"なのであろう。その能力には全く敬服のほかない。最後まで崩れない理念は、価値観にもとづく目的意識を確立すること、とだけつけ加えさせていただきたい。

第2, 第3の項はチーム・ワーク問題である。 第3は第2の必要条件でもある。第3の程度が低 いと第2に問題が発生しやすい。けれども必ず発 生する訳でもない。記しやすくするため、第2は 信頼感の問題と名付けよう。信頼の念は、相手の 能力や人格に対する尊敬の念から生まれると云え よう。この際、人間的魅力は能力や人格の一部と しておく。信頼は相手をたててやることでもある。 チームは互いの信頼感によって強くもなり、弱く もなる。また信頼は総ての個々人の間に相互に存 在するべきもので、一方通行では不十分である。 特にリーダーと隊員の間が信頼で結ばれていても、 隊員相互間になかったらまるでダメである。信頼 の度合いが深ければ深い程、尊敬の念は強いとい うことであり、相手の能力や人格は高いと云えよ う。権力それ自体だけでは、信頼感にはならない。

信頼の強いところ、不信や不平不満は起こらない。不信,不平,不満が発生するのは、相手の能力や人格が最初の出合いの評価よりもだんだん低くなり、尊敬の念がなくなるからである。多少とも尊敬の念が残っているうちは信頼感も少しはあるが、全くなくなってしまえば悲劇である。

相手の能力や人格を評価するということは恐ろ

しいことではあるが、誰しもが意識するとしない に拘わらずしていることである。勿論この評価は、 狭量と寛大では大きな差がある。準備期間中の評 価が、現地で更に成長するのでたまらない。準備 期は大切である。(評価は良い方に向かうことも 当然あるが、この場合は問題が解決することなの で、ここでは取上げない。) そこで隊の中の個の 立場としては、相手をわが身におきかえて評価す る態度が重要となる。そして、ここに集って来て いる仲間は全く自分にふさわしい人達であり、自 分の能力と人格としては最高の人達だと思うこと である。願わくば寛容の精神で接して行きたい。 あまり寛大にしていたのでは隊務が前進しないで はないかと考えられる読者もおろうが、評価の態 度としてはあくまでもそうありたい。リーダーで あっても、隊員であってもこれは変りない。そう でなければ、完全無欠な人間を求めることになっ てしまう。

第3の項は忠実度の問題である。云うまでもなく任務の推進はこれであり、チーム・ワークとしての遠征隊の成立を支えるものである。実務は任務分担として隊の中の個に委ねられている。個々人はここでの能力発揮により、互いの信頼に応えることが出来るのである。従って任務の停滞は許されず、責任も明確であり且つ重い。この場合、熱心ではあっても最初から能力が低く任務を処理しきれぬ隊員よりも、能力がありながら怠惰な者の方が問題となりやすい。また自分はこんなに一生懸命やっているのに、他の者は怠けているというような依存心も問題の発端となりやすい。

以上、チームの人間関係が崩れそうな場合について記してみた。そしてこれらは、リーダー及び隊員の資質によって大きな相異をもたらすと考えられる。A隊では問題となったことでも、B隊では何らの問題とならないことが数あるのである。従って人間関係におけるノウハウは、ケース・バイ・ケースとしか云いようがない。

結局、隊の組織論も運営論も個に帰すのである。

と、ことまで書いて来て、果たしてこんな論理 で読者に解ってもらえるかとイヤになった。どう も観念論すぎるようで面白くない。

花を求めて(1)

水野 勉

ぼくは花が好きである。花を眺めていると、心がなごむ。山野で花を見るばかりでなく、家にいて、あるいは街を歩いていても花を見て楽しんでいる。美しい花を見て心楽しくない人はいないだろうが、それでも自分が花を好むことを口に出したい。別に花や植物にくわしいわけではない。どちらかといえば、花の名など知らない方かもしれない。

ぼくは花がとても好きだ。この「閑話」でもかって「花の谷」と題して3回にわたって書いたことがある。また、いつかスマイスの名著「花の谷」を日本語に訳したいと思っている。その花の谷を訪れてみたいとも願っている。

それで、ヒマラヤの花を求めて奥地へと入っていった人びとのことを何回かにわたって紹介してみたい。山登りには無関係の話だから、山登りに夢中になっている方はこの項が終るまで、しばらくは「閑話」をとばして、他の記事を読んで頂きたい。といっても、ぼくの分担は1回置きであるから、五百沢氏の分は別である。

まず、ことわっておかねばならないことがある。 花を求めて探検に乗り出した人々の話といっても やかましくいえば、やはり学問の話であろう。多 くの文献を参照し、例のラテン名を列ねて書くことなど、ぼくにはできるわけがないから、やはり 閑話ということで、あれこれと好みに従って書く だけである。また、地域としては、中国領を扱う だけで、ブータン、ネパール、インド、パキスタン、アフガニスタンといった、普通にいわれるヒマラヤ地域を除いている。

これらの人びとは例外なく苦難を乗り越えて、 あるいは試練のただ中に突き進んでいった。職業 的採集者であろうと、他の仕事の合間に採集した 者であろうと、苦難に逢ったことに差別はない。 いく人かは生命を落とした。スリエ神父やドベル ナール神父のようなフランス人宣教師は殺された。 いく人か、例えば、ポターニン夫人,レジナルド・ ファラー,ジョージ・フォレストなどは、病のた めに死んだ。

花を求めて ― というと、いかにもロマンチッ クなひびきがするが、大都市の公園を散策するわ けではないから、少し大げさにいえば、生命を賭 しての旅である。新しい品種を求める旅は、当然 のこととして、人馬が通う地域ではなく、人の訪 れない辺境の地域へ向う旅である。中国の甘粛か ら四川、西康、雲南にひろがる山岳地域は、現在 においても秘境といっていい地域であり、植物の 宝庫である。新しい中国でも、これらの地域にト ラック道路をつくり、交通網を整備しているが、 それらの本道をはなれれば、未だに辺境の地がひ ろがっている。最近中国から来た雲南, 青海地方 のフィルムを見ても、道路の整備した地域につい ては詳しいが、つまり、昔から知られた地域につ いては詳細に写しているが、肝心なところは殆ん ど写されないか、あっさりと流している。いつか この欄で紹介した、ブラマプトラ川の大屈曲点や コンロン山地についての中国のフィルムもそうで あった。

したがって、19世紀後半から20世紀初頭にかけてヨーロッパ人たちが、この中国の辺境地帯に花を求めて入っていた頃を考えれば、生命がけだったといっても当然であろう。フランス人宣教師たち、ロシア人探検家たち(この中には有名なプルジェヴァルスキー、ポターニン、ヴェレゾフスキーなどがいる)、英米の植物採集者たち(ロバート・フォーチュン、アーネスト・ウィルソン、A・プラット、ジョージ・フォーレスト、レジナルド・

ファーラー, キングドン・ウォードなど) もすべて生命がけで中国の奥地に花を求めて入っていったのである。

この地域には多くの品種の花々が生育している が、その中でもぼくらになじみの深いのは、シャ クナゲ, サクラソウ, ケシの三つであろう。シャ クナゲは特に大木にもなり、ヒマラヤの山麓でも 多くの品種がみられるから、ヒマラヤを訪れた方 は見られているであろう。シッキムを19世紀半ば に訪れたジョセフ・ダルトン・フーカーもまたシ ャクナゲを愛した探検家であった。かれによって ヒマラヤのシャクナゲの美しさがヨーロッパに紹 介されたといってもいいくらいである。フーカー は、「ヒマラヤ紀行」の中でも、シャクナゲに言 及し、またその挿絵にシャクナゲの花の咲いた風 景を使っている。しかも色刷であって、見るもの を楽しませる。「ヒマラヤ紀行」の価値も、この 美しい挿絵が数多く入っていることによっても、 すくなからず高まっていると思う。日本訳の本も その点を考慮して、カラーで挿入しているが、色 があまり良くなかったのは残念である。

フーカーはこれ以外に「ヒマラヤのシャクナゲ」という、シャクナゲの花だけを大判の紙に画いた本を発表した。この絵の見事さは、文章では伝えにくい。ほればれする出来栄えである。更に、フーカーは、同じ大きさで「ヒマラヤの植物」という絵のみの本を出した。かれがヒマラヤの植物や花にかけたエネルギーはものすごい。このほかにも学問的に価値のある、ぼう大な著作をヒマラヤの植物についてまとめている。

もっとも、フーカーは専門の植物学者であり、 かれの父も、イギリスの有名なキュー植物園の園 長であったし、かれ自身も父の後をついでキュー 植物園長になったくらいである。

話が逸れてしまったのは、シャクナゲが出たからであるが、今号は序章のつもりだから、話が脱線したついでに、ケシについても話してみよう。

ケシといえば、青いケシの花を思うのはぼくばかりではあるまい。麻薬には無関係な話である。 青いケシの花は美しい花である。可憐な花である。 そして、この花にまつわる話もロマンに充ちている。青いケシの花が有名になったのは、1913年、 ベイリーが南チベットで発見した≪メコノプシス・ベイリー≫がヨーロッパに紹介されてからである。だから、一般的には、青いケシの花がベイリーによって発見されたと考えられている。しかし、≪メコノプシス・ベイリー≫は青い花をつけるケシの類の一種にすぎなかったのである。1848年にはすでにヨーロッパに紹介されて、英国で咲いていたし、1886年にはフランス人宣教師によって、同一種の青いケシの花が発見されているのだった。

キングドン・ウォードはその最初の著書に「青いケシの国」と名づけたのも、かれがこの著書の内容である1911年の探検旅行中に、青い、美しいケシの花を発見したからであったが、実際には、これも新種ではなく、ジョージ・フォーレストがすでに発見した≪メコノプシス・スペシオサ≫であった。ラテン語名をここに書くつもりはなかったが、「メコノプシス」ぐらいはよいであろう。これぐらいは知っていた方が、本を読むのに助けになるからである。

キングドン・ウォードは新種を発見したと思ったが、そうではなかったのである。あるいは1848年にはじめてヨーロッパに青い花が咲くメコノプシス属の植物が紹介されたということも、案外その前にも紹介されずみであるかもしれない。メコノプシス属に属する植物の一種である、いわゆる青いケシはヒマラヤ全域に分布していて、約40種もあるといわれる。だから、英国人がインドの北部へ入っていった18世紀末から19世紀の初頭においても全く見なかったとはっきりいえない気もするのである。

ベイリーによって有名になった青いケシの花であるけれども、それ以前にキングドン・ウォードが1911年に発見して、それを表題として本も書いているのだから、ぼくとしては、種類はともかくとして、青いケシの花の発見者 ――といって悪ければ、広く紹介した人として、ベイリーではなく、キングドン・ウォードを挙げたい。それにまた、ベイリーはどちらかといえば偶然にみつけたのであるが、キングドン・ウォードは花を求めて雲南の奥地へと入ったのだから、なおのこと、その名誉を与えたい。

ヴェリエル・エルウィン小伝

連載 (8)

転身・訣別・離反

~その2~

藤井 毅

≪「私は常にSam Hoare (前出のインド担当国 務相)に少なくともひとつだけは感謝しつづける であろう。つまり、彼がエルウィンを強引に政治 から詩の世界に引きもどしてくれたことである」 フランシス・ヤングハズバンドの言葉、『エルウィン自伝』、P82≫

エルウィンのとった行動は彼に期待を寄せていた人、逆に彼を利用しようとしていた人々を程度の差はあれがっかりさせることになった。大きな犠牲を払って再び手に入れることのできたパスポートを携え、ボンベイにもどってきたのは1932年11月1日のことである。彼はイギリス政府と交した契約の通り、民族運動に携わる人々と表立った接触を持ったことなくカランジアに向う。

転機となった大きな事件を乗り越えた後、ひたすらゴーンドの人々の中での生活を続けていこうとしたのであるが、問題はそれだけに留まることはなかった。インド到着以来、日々増大してきていた国教会当局との緊張がもはや抜き差しならないところまで達しかけていたし、一方では彼自身の私生活における問題、つまり結婚をめぐる煩悶が彼を苦しめはじめていたのである。

インド帰着後、以前のような形での民族・政治 運動への参加はなかったが、ガーンディーとの間 では手紙のやりとりが何回となく続いていた。エ ルウィンの結婚をめぐる苦悩は、その時期の公開 されたガーンディーとの往復書簡よりわずかなが らにうかがい知ることができる。(Misra,B.: Verrier Elwin, New York, Asia Pub. House, 19

73年. の付録参照)。 その頃エルウィンは、C·S • Sにいた時分に知り合ったM(本名等詳細不明) という女性と結婚を考えていて、1933年初頭には 彼女もC·S·Sを脱退してエルウィンらのアーシ ュラム (名称をGond Seva Mandal = ゴーンド奉 仕協会) に合流してきていた。しかし、ガーンデ ィーの言うブラフマチャリヤ(一般に言う"禁欲 的生活")とエルウィン自身の目指すアッシジの聖 フランチェスコにならった清貧な生活によるアー シュラムの維持と活動とは、必ずしも問題なく結 婚生活に結びつくものでもなかったのである。そ の上、エルウィンと結婚したいとするもうひとり の女性がガーンディーのもとで一悶着を起し始め ていたのである。1月にMとの結婚を決るが、3 月には話し合った末、二人の合意のもとそれを取 りやめ、協働者としてアーシュラム維持に全力を 傾注することにしたのであった。発展的な婚約の 解消ではあったが、決して軽々しいものでもなか った。「自伝」・「日記」ともにこの部分は空白 であり、エルウィンが最初に結婚するのはそれか ら約七年後の、全く異った事情のもとでである。 ガーンディーとの間の往復書簡にただようのは滑 稽なまでのエルウィンのまじめさである。こうし てまたひとつの余分な部分を切り離すかのように してエルウィンはゴーンドの中での活動を続けて いったのである。

国教会との絶縁

更にもうひとつの、そして最大の痛みを伴った

出来事が1936年11月に至るまでのイギリス国教会 との対立と、それとの絶縁に及ぶまでの過程であ る。国教会との対立はまずエルウィンの民族運動 への参加をめぐってはじまり、後にそれがエルウ ィン自身の中での国教会自体への、キリスト教教 理自体への疑問へと拡大し、ついには聖職者の資 格と特権の返上・教会との絶縁ということにつな がっていったのである。大学時代、"オックスフ ォードでも最も保守的なキリスト教団体"の委員 長を務めたこともある彼が、ついには国教会とも 絶縁していく過程は尋常なものであろうはずがな く、それは友人・縁者との絶縁を伴うものであり、 同時に"イギリス本国ではその生涯を絶えない" ということを意味していたのである。その痛みゆ え、彼が国教と絶縁するに至るまでの過程とその 事実の仔細を公表したのは、実に二十年以上も後 のことなのであった。その間、事情を知らない人 々は彼をして「キリスト教の手先」。「分離主義. 者」と批難しつづけたのである。

彼の『自伝』を相述する形で、その絶縁に至る までの過程を少しばかりたどってみよう。

カランジアに入った最初の頃、彼はまだキリス ト教に基づき彼自身の「贖罪」という、キリスト 教にある典型的な考え方でその活動をとらえてい たのであるが、少なくともゴーンドの人々を改宗 させようとする意志は持っておらずまた実際その ような活動はなさなかった。その理由は前述の通 り、彼の宗教に対する見方によっているのである。 即ち、宗教とは改宗や罪よりの救い、自己救済や 教理研究にあるのではなく、個的な"神の実在を 求めての魂の探求"にあったのである。≪「私は 徹底して宗教的な人間であり、一時ほとんど熱狂 的にキリスト教のある一面に執着していた。私の 国教会との訣別は本質的には信仰の問題であった 」, 『自伝』, P99≫。しかしかといって、彼は すべての宗教は同じだという考え方に組みしてい たわけでもなかった。それらはオックスフォード 時代へ神秘主義の研究とガーンディーの思想、そ してそれらを現実の中を通してみていこうとする 彼自身の姿勢によっていたのである。

国教会との対立は具体的には二つの点をめぐってはじまっていた。ひとつはキリスト教徒・国教

会の政治(植民地統活)への参加であり、ふたつはその非キリスト教徒への態度(宣教・改宗)であった。植民地統治と国教会が密接に結びつき、ひとつの価値観で押し切っていくことへの疑問であった。この疑問は後年、先達であった C・F・アンドリューズへの批判へも向っていく。

ナーグルプのビショップの紹介でカランジアに 定着したものの、定着開始後は日々その干渉を受 けるようになり、実際的な国教会との対立はこの ビショップとの摩擦・衝突という形で進行してい った。イギリス政府と取り交した契約すら、教会 当局を満足させることはなかったのである。つま り、エルウィンは決して魂まで売り渡したわけで はないのである。

1932年2月、ナーグルプのビショップは手紙を 寄せ、エルウィンに「国王への恭順」と「教会へ の服従」の誓いをたてることを要求してきた。エ ルウィンはそれを筋道だてて拒否する。その直後、 ビショップらの一行の訪問を受け前回のような言 辞をなげかけられるにいたるのである。同年12月、 そのビショップに手紙を宛て、彼が国教会と絶縁 するに至る最初の重要なステップを踏み出す。即 ち、聖職者としての資格をもはや適用しないこと を要求したのであった。そして更にその3年後の 1935年11月、カルカッタの国教会大監督に宛て、 もはや国教会のメンバーでも牧師でもないことを 通告したのである。最終的には1936年11月にロン ドンを訪れた際、Dead of Relinquishment に署名 をし、the Clerical Disabilities Act, 1870年に基づ き、聖職者であることによってもたらされる権利 一切を放棄したのであった。

1932年から1936年にかけてのこの絶縁の過程は、ゴーンドの中での活動の着実なる深化に裏付ちされていた。国教会当局と疎遠になっていくのに反比例し、エルウィンは確実にその足場をインドのゴーンドの人々の中に築いていったのである。それは苦しく痛みを伴う経験であったが、結果として大きな解放と自由をもたらすものであった。インド到着9年目にして、彼は全く別な次元へと一歩を踏み出すことになったのである。

=つづく=

事務局日誌

チャンシャウ 11 14/10			
月日	曜	摘 要	
3. 1	土	カンチェンガ偵察隊出発、インド・ヒ	
		マラヤ集会文書発送	
3. 2	日	登山学校インストラクター会議(京都)	
3. 4	火	サリーン氏へ招請状、日山協からガネ	
		ッシュⅡ峰許可通知	
3. 5	水	J. シン氏へ招請状	
3. 6	木	カンチ隊貨 (第2次) 発送	
3. 8	土	各岳連あて集会協力依頼通知	
3. 9	日	日本ヒマラヤ会議札幌会場開催(48名	
		参加)、会員集会(札幌)	
3. 12	水	55年度日本ヒマラヤ会議日山協後援依	
		頼書提出	
3. 13	木	「ヒマラヤ」101号印刷完了	
3. 14	金	会議資料作成、カンチニュース送付	
3. 15	土	「ヒマラヤ」発送、80年登山学校隊員	
		会議(ルーム)	

3. 16	日	インド・ヒマラヤ遠征情報交換会(東
		京) J. シン氏レセプション(勤労福
		祉会館)
3. 17	月	インド・ヒマラヤ集会(仙台)
3. 18	火	インド・ヒマラヤ集会 (宇都宮)
3. 19	水	委託書納品(各書店)
3. 20	木	インド・ヒマラヤ集会(名古屋)
3. 21	金	インド・ヒマラヤ集会(大阪)
3. 23	日	インド・ヒマラヤ集会(東京) J. シ
		ン氏サヨナラパーティ、事務局打合
		(ルーム)
3. 24	月	J. シン氏アメリカへ出発
3. 25	火	会計決算準備
3. 26	水	" "
3. 27	木	" "
3. 29	土	ルーム内整備
3. 31	月	54年会計年度終了
1		

摘

要

月日

曜

~~~~ 寸 感 ~~~~

今月号では、ネパール登山協会の登山規則と最近のブータン王国のトレッキング事情について特集してみました。大きな組織力でなければできなかった頃から比べれば、ネパールヒマラヤも身近かになったものです。東部ヒマラヤのブータンが、徐々にではあっても、開放されつつあるのも喜ばしいものです。NMAの登山規則では、環境の保護について刻っ

NMAの登山規則では、環境の保護について訟っていますが、最近、インド、パキスタン、アラスカでも山のゴミについての話を耳にします。雄大なヒマラヤでゴミの話とは何となく世知辛い感じもしますが、自然(環境)の保護には常日頃から心掛けるべきことではないでしょうか。 (I)

ヒマラヤNo.102(5月号)

昭和55年4月10日印刷 55年5月1日発行

発 行 人 柴 田 金之助

編 集 人 伊 東 満 発 行 所 日本ヒマラヤ協会

〒160東京都新宿区高田馬場3-23-1-506

Š

ニュース ヒマラヤ(中央アジア含む)の各地域の社会情勢・現地事情(入山事情)の変化、日本を含む各国登山隊の動勢、その他気のついた事をお知らせ下さい。ニュスソースも併記して下さい。

紀 行 遠征、トレッキング、旅 etc……。

ヒマラヤ及びシルクロードに関する地域なら何でも結構です。"記録"ではなく"紀行"としてお気軽に 御投稿下さい。 400 字詰原稿用紙 $6\sim8$ 枚程度、横書きでお願いします。

日本からヒマラヤから ヒマラヤ等に出かけた際の印象、現地からの便り、ヒマラヤに関して日頃思っていること何でも結構です。「ヒマラヤ」編集部やHAJに対する提言などもお寄せ下さい。またヒマラマ地域へ出かけられる方、ハガキで結構ですから御一報下さい。

★ 投稿は会員、非会員を問いません。採用分には掲載誌を贈呈致します。

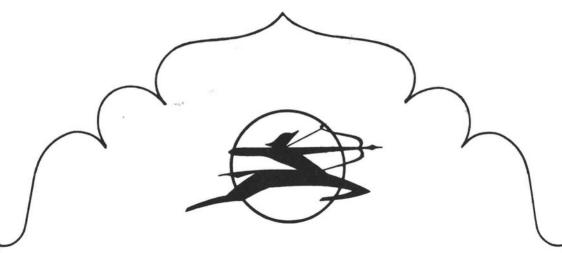
ヒマラヤへの装備



総 ICT 万井スポーツ

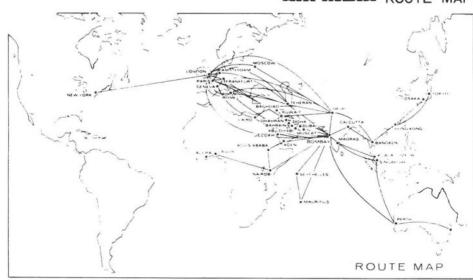


- 新宿登山本店 〒160東京都新宿区百人町 2 2 3 ☎03(208)6601代
- 新宿西口店 · 〒160東京都新宿区西新宿 1 · 16 7 ☎03 (346) 0301
- ●水道橋ハードキアショップ。〒101東京都千代田区三崎町2-8-14☎03(264)5575
- ●水道橋ソフトウェアショップ/〒101東京都千代田区三崎町2-8-6 ☎03(264)8901
- ●大宮店/〒330埼玉県大宮市宮町2-123☎0486(41)5707
- ●高崎店 / 〒370群馬県高崎市新町105☎0273 (27) 2397
- ●ICI通販部 〒160東京都新宿区大久保 2 19-10東和ヒル内☎03 (200) 7219





MIR-INDIA ROUTE MAP



ヒマラヤとアルプスへの登山は、名古屋の耕井(HAJ会員)まで、お問い合わせ下さい。 名古屋●中村区名駅四丁目7-35ホテルニューナゴヤ 747号室 〒450☎ (052) 583 - 0747

世界の40都市をネットする

東 京●千代田区有楽町日比谷パークビル

横 浜●中区常磐1-2関内日本ビル

大 阪●東区備後町松豊ビル

神 戸●葺合区布引2-1-3新布引ビル

福 ・岡●博多区博多駅前 1-3-21八重州ビル 〒812☎ (092) 471-7172

〒100☎ (03) 214-7631 〒231☎ (045) 651-2874 〒541☎ (06) 264-1781 〒651☎ (078) 222-1919